

## 無知の発見

### 1. 教育を考える一言

「勉強することは自分の無知を徐々に発見していくことである。」

### 2. 背景

私は、中国からの留学生梁京花と申します。今から自分の留学経験談を基に私が思った「教育を考える一言」についてお話させていただきます。

アメリカの実業家ウェル・デュラントはこんな名言を残りました。「勉強することは自分の無知を徐々に発見していくことである。」今までの人生を回想して見るとまさかその通りだなと思います。

筑波大学は留学生を積極的に受け入れている国立大学の一つであるため、皆さんの周りにもきっといろんな国からの留学生の方々がいらっしやると思われます。周りの留学生たちを見るたびに皆さんの頭の中にはたぶん「彼らはなぜ日本に留学に来ているだろう」という疑問が浮かぶと思います。

人によってそのきっかけになるものは様々だと思いますが、私の場合は、中学の時、日本語を第二外国語として勉強し始め、大学の4年間、日本語専攻だったことが日本への留学を決めるのに大きく作用しました。中国で数年間の日本語の勉強を通じて日本語能力はある程度上手になりましたが、ボランディア活動で日本側の通訳を任された時や日本語スピーチコンテストに参加した時には、自分に物足りなさをしみじみに感じてしまいました。日本に行って日本語の勉強だけではなく、いろいろ体験しながらその国への文化理解を深めることが、将来自分が母国で日本語教師になるにせよ日本との関係のある仕事に就くにせよ、自分の人生のなかでは貴重な経験になると思って、日本の大学院に入ることを決意しました。

日本にきて今年で2年目になりますが、この2年間はほんとに無知の自分との戦いでした。最初の半年はゼミや授業などに参加しても日本の教育に関しての基礎知識が全くなかったため、その内容を頭の中でイメージするのが難しく、相当苦勞しました。その時「自分とは違う、自分にはわからない」から興味が持てない、仕方ないと思って諦めたり、自信を失くしたりする時期もありましたが、できるだけマインドを変えて分からないからこそ面白いところがそこにあるのではないかなと自分を慰めながら課題や問題解決に取り組むようにしています。

### 3. 考察

私は大学院生活の中で最も大事なことは自分と違う見方を持っている人々とお話をしたりお話を聞いたりすることだと思います。その中で自分一人では気づけなかったところに新しい発見ができるし、自分の足りないところも分かってくると思います。また、いろんな問題に関して考えてみるチャンスにもなるので、ものの見方も多様化になって来ると思います。

分からないことは恥ずかしいことだと思うのも大切かも知れませんが、私はむしろ自分にもっと素直になって無知を恥ずかしいことだと思わずに徐々に発見していく勇気も自分を成長するためには必要ではないかなと思います。